

(様式2)

2019 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590600050		
法人名	社会福祉法人 御幸会		
事業所名	グループホーム・ヒルトップくしがた(あやめユニット)		
所在地	新潟県新発田市中央町4丁目6番6号		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年5月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今回、自己評価を行う上で当施設のもつポジティブな部分について全職員で話し合った。他のグループホームでの経験を有する者、当施設しか経験のない者もあるが思い思いに意見を出し合った。施設の立地が集落から離れていることにより、日常での地域住民との交流が難しいなかにおいて施設側、地域側のイベントを通じて交流が図れている。更にイベントを通じて当施設の性格や入所されるご利用者様の状態を理解して頂くことにも繋がっている。こうしたグループホームと云う施設を啓蒙していく上で広報誌の発行と回覧が大きく寄与していると考えられる。地域の中学生が職場体験に来られた際、「広報誌、見えますか？」と伺うと「はい！」と即答された姿に介護者世代だけにあらず、若い世代もが関心を持たれている事に大きな喜びを感じる場面となった。また、冬季は厳しい環境にあるが、新緑の時期や紅葉の時期における施設からの眺望はご利用者様にとって四季折々を感じる絶景となっている。天気の良い日はゴミ捨てや散歩を通じて外気に触れる機会を持ち、そこではご利用者様同士のコミュニケーションが図られる機会ともなっている。ぽつんと一軒家のような環境にあるが、自然に恵まれた良い環境と捉えて、更なるご利用者様支援と施設運営の向上を図っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新発田市郊外の高台に、同法人が運営する特別養護老人ホームと隣接して建てられている。集落から少し離れた所にあり、交通の不便さはあるが、自然豊かな環境の中で、利用者は職員と一緒に周辺の散歩や畑作業等を行い、四季を感じながら過ごすことができている。また、近くには不動尊やカフェ、集落の交流センターがあり、集落の人との交流の機会が年々増えて来ている。職員は、地域密着型サービス事業所としての役割を担うことや情報を発信することに努めており、集落清掃への参加やお便りの回覧の他、特別養護老人ホームと共催で行う夏祭りイベントでの地域住民との交流や、集落のイベントに積極的に参加し、利用者が地域の中で暮らすことを支援している。

特別養護老人ホーム、協力病院との連携も強化されており、利用者の医療・介護をトータル的に支援する体制が整っているため、利用者は、健康や、支援の継続性に対する不安を抱くことなく安心して暮らすことができている。

管理者・職員は、事業所が理念とする「笑顔の絶えない家庭づくり」の実践に日々努めており、笑いがあふれる一日になるように、一人ひとりの利用者に向き合いながら、職員も一緒に楽しめるようにチーム一丸となって取り組んでいる。その中で利用者は、調理を始め、洗濯干し、掃除、畑仕事などできることを担うことで、生きがいを感じながら暮らしている。職員はさらに利用者の理解に努め、より主体的な暮らしが支援できるように取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果【あやめユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設開設当初より変わらぬ事業所理念となっている。ご利用者の殆どが共用スペースでの他者との交流を望まれていることから、当理念は不変のものと考え職員もご利用者と一緒に楽しみ、交流を促進すべく実践に努めている。	開設時の職員によって事業所の目指す方向性を話し合い、「笑いの絶えない家庭づくり」を理念として策定している。毎年度見直しを行っているが、継続した理念として職員の立ち返る拠りどころとなっている。理念は玄関に大きく掲示しているほか、お便りにも毎回掲載し、広く公表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われるイベント、施設で開催されるイベント等を通じて地域住民とご利用者の交流の機会は定期的に保たれている。また、美容院など日常生活を送るなかでも馴染みの関係は築かれている。	法人が運営する隣接の特別養護老人ホームと合同で開催する夏祭りには、年々地域住民の参加が増え、地域の恒例行事となっている。また、地域の催事がある時には案内をもらい参加している。事業所が作成する「お便り」を回覧してもらったり、集落の清掃活動にも参加するなど日常的な交流が行われるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントや日常の交流のなかで当施設の理解とご利用者様の理解は促進されていると感じる。また、広報誌を定期的に回覧して頂くことで、より深く理解して頂けるように努めている。地域の中学生がボランティア体験として来所されたことは地域貢献の一環である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設開設から8年、地区区長様は数年毎で変われど他の会議構成員は変わっていない。以前のような厳しい意見はなくなり施設として軌道に乗ったように感じるが、現状維持は後退との認識を持ちサービスの向上に努めていきたい。	運営推進会議は区長、民生委員、包括支援センター職員が委員となっているが、新しく民生児童委員が加わったことにより活発化が図られてきている。しかし、会議の内容は主に事業所からの報告事項であり、利用者・家族の参加がなかなか得られない状況にある。	運営推進会議は利用者のより豊かな暮らしを目指して利用者・家族と地域、事業所が話し合う貴重な場となっている。今後は家族・利用者が参加できるような取組と、参加できない家族にも会議の内容を報告し、より身近な意見交換が出来る機会として理解してもらえる工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは連絡を取ることは殆どない。事業所の実情やサービスの取り組みについては運営推進会議に出席される地域包括担当者を通じて報告されている。分からない事や困り事などは行政担当者に連絡させて頂くが親切丁寧に対応してくださる。	包括支援センター職員には利用者の状況で対応等に困りごとがあれば相談できている。また、市の職員には制度や提出書類などに不明があれば気軽に問い合わせ、助言を得ている。市が主催の会議参加の実績はないが研修等には案内があれば参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みを行い研修会等で全職員が理解している。玄関の施錠はもちろん言葉の掛け方にも日々気を付けている。	マニュアルの整備を行い、毎年度定期的に研修を実施して身体拘束をしないケアを実践している。また、日常のケアの実践の中で、言葉づかいも含めて振り返りを行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待をしないという意識を普段から持っている。拘束委員会の研修を三ヶ月に1回行い身体的拘束や虐待をしないという方針を徹底している。	「高齢者虐待防止関連法」については今年度研修を実施し、何が虐待に当る行為なのかを職員で振り返りを行っている。また、不適切な言葉かけが見られたときには職員同士で注意し合える他、利用者のその日の状況に合わせて、対応職員を交代するなどの工夫や協力で、個々の職員が孤立することがないように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年権利擁護に関する研修を実施するなかで日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修は回数を重ねて実施している。今年度は日常生活における権利を考えて研修を実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時においては十分な時間を取って説明を行っている。また、これまでにあった不安点や疑問点をあらかじめ説明することで安心へと繋げている。料金の改定においても重要事項説明書の一部変更に伴う契約書に基づいて説明と承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族様や入居者様からご意見を伺っている。また普段の会話の中からご意見を伺うこともあり改善に努めている。	運営推進会議に参加された際や面会時に家族に意見・要望を聞くよう努めている。また、サービス担当者会議には必ず家族の参加が得られるので、そこでも意見を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつも意見の言える雰囲気や関係性に努め提案等については実現できるように一緒に考えるようにしている。ユニット会議では職員からの意見を出す機会となっている。	会議はユニット会議、全体会議として体系が作られているが、日頃から何でもすぐに話し合える環境が整っており、職員の意見・アイデアが受け入れられている。要望は就業環境に関することが多いが、働きやすい環境の整備作りに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤怠実績や職位、経験、努力等に基づいて給与水準や昇給を決定している。就業における実情は時間外での労働はほぼ無く、定刻通りに出勤できている。また、働き方改革に沿って有給休暇も良好に取得できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が当施設での就業が3年以上となっており、施設内で個別でのトレーニングは実施していない。内部での研修は全職員が参加することは出来ないが、不在職員にも回覧説明を行いスキルアップに繋げている。必要な研修や希望のある研修は参加できる環境にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設する特別養護老人ホームで開催されるイベントや委員会等において、それぞれの施設職員で協働している。また、他法人のイベントにもお邪魔させて頂く機会があり、職員同士の交流を図ることができた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い本人の要望を必ずお聞きしプランに反映している。また、家族とも連携を取り安心して過ごして頂けるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が入居前に訪問し家族としての困りごとをお聞きし入居となってもいつでも家族が来ても大丈夫な事を伝えている。またお話を伺うことで良好な関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握し事前に来て頂くなど必要な支援をしている。また他のサービス事業所とも連携を図り情報をもらうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご本人様に寄り添い耳を傾け生活を共にしながらキッチンでの仕事や掃除、畑仕事などそれぞれ得意とする事を役割として提供し行うことで生き生きとされている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までともに生活されていたご家族様との絆を大切にこれまで培われてきた生活能力を十分に引き出せるようご家族様と協力共有しながらご本人様を支えて行く関係を築いている。	利用者の出来ることや趣味などが入居後も継続できるように、情報の共有を図りながら一緒に取り組んでいる。家族が面会に来られた際は、居室でゆっくり過ごせるように支援しており、年に1回計画実施している「調理レクリエーション」には多くの家族が参加し、一緒に過ごす時間が作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などにより昔からお付き合いされ親しまれている方との時間を大切にゆくり過ごして頂いたり馴染みの美容室へ出掛けお洒落を楽しむことが出来たり外出時馴染みのある場所に行かれ思い出し話をされるよう支援している。	事前に得られた情報を元に、入居以前に通っていた美容室等の利用を支援している。また、職員と一緒に利用者が以前住まいにしていた地域に出かけたり、家族の協力を得ながら、外泊や外食に出かけている。入居後も畑作りや新たに始めた習字等に継続して取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの個性を把握しお互いに助け合い偏らない支え合う場を提供し常に関わり合いが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の殆どのケースが併設する特別養護老人ホームへの転居となっている。契約解除に当たっては、今後困り事や相談事があればいつでも連絡を頂けるように説明している。ご本人においてもご利用者が面会に訪れるなど契約終了後も関係性は継続されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の昔からの暮らし方、ご本人様からの意向が把握出来ない困難な場合はご家族様から意見を聞き取り内容を参考にし個々の希望に添えるように検討している。	介護計画作成時に事業所での暮らしの意向を尋ねるが、上手く表現できない利用者もいることから、日常の暮らしの中での行動や会話の内容、呟きなど、何気なく発信している事を見逃さないようにして把握に努めている。把握した内容については、職員で共有できるように記録している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より生活歴などの聞き取りサービス提供の内容によって力を発揮出来るよう把握に努めている、また裁縫をしていた方、商売をしていた方などそれぞれ特徴を活かせるサービスを提供しその経過の把握をすることに努めている。	入居前に自宅やサービス事業所に出向いてこれまでの生活状況やサービスの利用状況について確認している。自宅面談の際は、生活歴や習慣の把握と同様に、居室の造りや、周辺環境も確認している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の一日の過ごし方現状を常に把握し心身ともに安全に健康的に過ごされて力を発揮出来ることに努めている。また定期的なアセスメントにより現状把握出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い入居者様やご家族様の意向を確認しケアプランの検討を行っている。また入居者様の状態に合わせてカンファレンスを行い随時ケアプランの見直しも行っている。	介護計画は事前情報を元に暫定プランを作成し、2週間の状況をモニタリングしながら正式プランの作成を行っている。作成は居室担当職員と計画作成担当者が中心となって、他の職員の意見を聞きながら作成、目標達成に向けて支援内容を実施し、モニタリングを行う仕組みとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん申し送り月一回ユニット会議で入居者様の個別の提議で問題点を上げケアの見直し改善など職員間で話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様での受診の付添が困難な際や施設生活上で必要となる買物の同行、理美容室の付添など、その時々で柔軟な対応を行っている。また、被成年後見人においては成年後見人の事務の範囲を理解して、施設として対応が可能なことはフォローしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域には買物が出来る店舗や医院などが全くない環境である。必要時はドライブがてら出掛けることになるが、その事が気分転換に繋がっている。地域における資源は限られてくるが、神社、美容院、コミセン、小中学校等を通じて住民とも交流が図られ楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所に伴い多くのご利用者が当施設の協力病院へ切り替えられている。入所前まではご家族で通院の介助を行っていた方も多く、ご家族の負担軽減に繋がっている。また、入所後もかかりつけ医を継続されている方もあり、希望に則した医療の提供に努めている。	かかりつけ医の選択は、利用者・家族の希望によって決定している。協力医であるかかりつけ医への月2回の通院は職員が付き添い、他の専門医への付き添いは家族対応としているが、いずれも医師との連携が図れている状況で、利用者・家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置もなく、訪問看護も利用していないが協力病院とは24時間体制で連携が取れる環境にある。少しの容態変化でも連絡することで看護師、医師等から指示を受けることが可能であり、算定はしていないが医療連携加算の算定基準より充実していると云える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	多くのご利用者が協力病院がかかりつけ医であること。また、内科的入院に際しては協力病院となることと殆どである。協力病院の医療関係者はご利用者を普段から理解されており、安心して治療に専念できる環境と云える。退院に際しても、定期の通院介助時に入院されている方の状態の確認や看護師との情報交換を容易となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	容態変化などあった場合は随時ご家族様に連絡し様子を伝えている。また協力病院があり24時間変化があった場合は速やかに状態を報告し指示を受けることが出来る。	入居時に事業所で支援できることの説明を行い利用者・家族の同意を得ている。現在まで、法人全体で医療・介護をトータル的に支援する仕組みが機能しており、状態に応じて生活の場を特別養護老人ホームに住み替えるなど、利用者・家族が不安なく過ごせるよう取り組んでいる。状態に応じて早い段階から家族と話し合いを進めているが、希望によっては出来るだけ長く事業所で過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応研修を実施している。またAED酸素、吸引器が設置されているため職員研修を毎年行っている。	AEDの取り扱い、心肺蘇生法の研修のほか、誤嚥等の救急対応について、特別養護老人ホーム看護師を講師に毎年定期的実践研修を実施して力をつけている。パート職員の研修参加も今後は計画的に実施していく予定にある。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に於いては地域消防団からの支援体制が構築されている。水害においては安全な立地環境であり、3階建ての特養が併設することからも問題ないと考えられる。地域の避難場所や救援物資等の搬入場所等も運営推進会議の場で地区区長様と相談の時間を設けている。災害訓練は夜間想定を含めて年に2回実施している。	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。事象別の災害対策マニュアル、避難経路・場所の確認も行い災害発生に備えている。備蓄品は法人管理としているが、停電時の対応も含めて適切に対応できる仕組みがある。運営推進会議の中で、有事には地域消防団の協力が得られるように協定が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	アセスメントなどでその人となり性格を把握し個別での対応を心掛けている。また入浴など男性職員拒否の入居者の方は女性職員が対応しご本人様の尊厳やプライドが失われないように気を付けている。	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や背景を理解して、行動や言葉の意味を模索しながら日々対応することに努めている。また、センター方式のアセスメント表を活用しながら利用者に向き合い、言葉かけ等を工夫し、プライドを損なわないケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時や散歩時など個別でゆっくりと会話できるため困っていることや不安に思っていることなど聞くことが出来る。ご本人様も他入居者様に聞かれることもなくリラックスして話されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話好きな方がお多く日中は雑談や家事作業など意力的にされている。またゆっくりしたい時など居室で横になったり本を読んだりしている。農家だった方に声掛けし施設の畑へ散歩に行かれ水やりや草取りをして楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前にご本人様が着たい服を選んで頂くようにしている。また洗面台にはヘアブラシや化粧水や乳液などのご本人様が使用してきた化粧品をセットしその人らしい生活ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米研ぎ、食物盛り付け、配膳、下膳、食器洗い食器拭き等を利用者中心に携わってもらい食事に対する意欲向上に関心をもって頂くよう支援している。	食事は給食委託業者の栄養士が献立を作成し、材料の提供を受けて事業所で調理している。利用者は一人ひとりが出来ることを担い、調理・盛り付け・配膳・後片付け等を楽しみながら行っている。利用者が食べたい物を献立に反映できるほか、バイキングやセレクトメニュー、行事食なども計画されており、楽しみのある食事となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の目標に難しい方もおられその都度水分摂取量を記録し職員間で共有している。常食では咀嚼が難しい利用者には刻み、ミキサー食、トロミ剤を使用し個々に合わせた食事を提供している。また月1回のWT測定増減をチェック共有し食事量をコントロールしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし指定した洗面所又は自室に誘導し行っていただくよう支援している。また義歯の洗浄除菌は職員が行い支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄前・後で介助が必要な方には定時に声掛け誘導見守り下着・衣類上げさ下行い支援している。また自立している方でも汚染した時などはパットを渡し交換して頂き清潔感を感じられるよう支援している。	一人ひとりの排泄状況を把握しており、声かけや時間誘導を行うなどきめ細やかに対応している。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者が3名いるが、他は終日トイレでの排泄が支援されている。また、入院時にはオムツ対応になっても退院後は改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝昼夕食時やおやつの時間などに十分な水分量を提供し摂取して頂いている。排便困難な方で病院より処方された下剤を使用している方は排便をチェックし下剤の量を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴予定を作成し隔たりの無いよう支援している。また入る順番を希望される方には希望に通りになるよう支援している。季節ごとに菖蒲、柚子湯を提供したり職員と会話しながらリラックス出来るよう支援している。	入浴は午前入浴を基本とし、予定を立てて支援しているが、毎日希望される方、予定の日には希望されない方などには、一人ひとりの希望に沿うようにしている。また、利用者の状態に応じて支援する職員も交代する等、入浴が楽しい時間となるように工夫している。季節に応じたかわり湯も利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に行っているリハビリ体操・運動やレクリエーションなど身体を動かすことが日課となり定着している、無理矢理ではなく本人主体とし自然とできる環境になっている。活動的に一日を過ごすことで夜間の安眠に繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を服用するのに利用者に渡す前や介助する前に職員間でご本人様の薬であるかを確認している。また定期受診後処方された薬の内容を業務日誌や申し送りノートに記入し朝夕のミーティングで申し送り全職員が周知している。下剤の服用で不安を抱いている方には服用するかはご本人様の意思添い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き洗濯物たたみ等日常的な作業で役割の定着を行っており楽しいと思えることや楽しい時間が増えるように支援している。また入居者様の誕生日を皆さんと祝ったりドライブなどを行い気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の状態に合わせグループホームの周りや畑へ散歩したり地域の行事に参加したり個別に買い物に出掛けたりと支援している。またご家族様の希望日に外出や外泊を行い楽しまれ家族の絆が深められるよう支援している。	事業所が自然豊かな環境の中に立地していることもあり、天気が良ければ日常的に周辺を散歩している。近くのカフェでのランチや、スーパーでの買い物、誕生日には職員と一緒にプレゼントを買いに出かけることも恒例となっている。外出行事としては花見や温泉地等に出かけて楽しんでいる。家族の支援で外泊や外食、買い物に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた時にレジにて支払いをお願いし支払って頂いている。また必要なものやご本人様が欲しいと希望されるものはご家族様と相談し希望に添えるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも好きな時に電話がかけられるよう声掛けをしている。また季節ごとに入居者様がご家族様に暑中お見舞いや年賀状を書かれお出している、またご家族様から暑中お見舞いや年賀状のお返事を頂き交流されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の目線に立ち音や光の強弱、温度湿度の調整を行っている。またリビングの窓は広く中庭の畑に植えてあるじゃが芋やキャベツなどの野菜やマリーゴールドや向日葵、コスモスなど季節ごとに花を見ることができ室内でも四季が感じられるように支援している。	共用空間は全体に広い造りで、利用者の動線上は元より、整理・清掃が行き届き、家庭的な雰囲気づくりの中でも安全性が確保されている。壁面は利用者の作品や季節を感じる装飾が施されていて、心安らく居場所になっている。利用者は日中はほとんど食堂や居間で過ごしているので、職員は手作業の他、ボールなどを使って運動することを一緒に楽しみながら行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で畳コーナーに共有のテレビがありその前に仲良く座りテレビ番組を見ながら昔のことを思い出したり話をしたり、ニュースを見て共感されている。また一人になりたい時は自室に行かれ椅子に座り窓から外の景色を眺めゆっくりと過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた毛布などの寝具を持参し使用されている。またお気に入りの小物やぬいぐるみを自室の目の届くところに置いたり写真や作成した刺し子を貼って飾りご本人様が心地良く過ごせるように支援している。	自宅での暮らしとギャップができるだけないように、ベッドの向きや家具の配置を工夫している。一人ひとりの生活習慣や意向に沿って居室の飾りつけやテレビ、ラジオ、本などが持ち込まれて自分の居室としてゆっくり過ごせるように支援している。また、家族がこれまでの「暮らし」を時系列に写真に刻み、入居後の支えになるように支援している居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の各所に手すりを設置し灯りを調整しながら夜間帯に転倒や怪我をせず歩行が出来るように支援している。また自室の場所がわかるように自室の入口に名前を書いた飾りをつけ間違わないようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				